

民族衣装の確立（韓国編）

青木 愛子

はじめに

民族衣装の確立（日本編）⁽¹⁾は、世界のどの民族でも古くから人形が存在しており、その多くはその民族の衣装を身に着けている。国と国との交流が未だない時代からすでに人形が存在していることに着目した。

顔をつくり、髪を結び、美しい衣装を身にまとった人形は、衣裳人形として伝承され、布の模様や材質は時代と風土にて培われ、日本の四季折々の衣装を身につけた人形の数世界に類を見ないのではないかと推察する。各時代の衣裳人形の歴史から民族衣装の確立について考察した。

昭和に入り親善大使として海外に贈られた『やまと人形』が身に着けていた和装が世界に紹介され日本の民族衣装として確立した。

韓国の『衣』の歴史文化について調査研究するにあたり、（日本編）と同様、布の模様・材質が時代と風土にて培われ、衣裳人形として保存伝承されていることが望ましいと考える。

韓国の気候は日本と同じく『春夏秋冬』があり、宗教の自由、教育制度など基本的な事柄は日本と似ている事が多いように思われる。日韓同時代を比較し、韓国の民族衣装の確立を調査する。



【やまと人形】

【韓国（朝鮮）の歴史】

1. 先史時代
2. 三国時代
3. 統一新羅時代

【日本の歴史】

- 縄文・弥生時代（土偶）
- 古墳時代（埴輪）飛鳥時代（隋書倭国伝）
- 奈良時代（遣唐使）

- | | |
|-----------|---|
| 4. 高麗時代 | 平安時代（ひいな）・鎌倉時代（戦乱の時代） |
| 5. 朝鮮時代 | 室町時代・安土桃山時代・江戸時代・明治時代
（戦国時代）（泰平の世＝人形文化開花） |
| 6. 日帝時代 | 大正時代・昭和時代（1926年～1945年）
（フランス人形、抒情的風俗人形） |
| 7. 大韓民国誕生 | 昭和時代（1945年～1989年）
（やまと人形が親善大使を務める＝民族衣装の確立） |

韓国（朝鮮）の衣裳人形について

人形は、その国の風俗・民族の歴史・民族性を伝承する大きな任務を担っていると言っても過言ではないと思っている。人形は呪術に使われたり、身代わりに使われたりしていることも事実であろうが、その国のその時代の衣裳を着せてもらい愛され、小さな体で自分の国を誇らしげに語り伝えているのが衣裳人形の本質であり創作者の思いであると確信している。人の住むところには、人形（民族人形・風俗人形）が必ず存在していることを前提に、韓国（朝鮮）における各時代の衣裳人形の歴史から民族衣装の確立について考察するための資料収集に努めた。

韓国（朝鮮）の人形に関する資料を探している中で『世界の人形：世界友の会編⁽²⁾』に出会い、韓国（朝鮮）の人形に関する資料が見当たらない現実に直面した。図書の内容は、1957年に東京上野の松坂屋で「世界の人形展」が開催され、54カ国の人形が展示された。人形たちはそれぞれの国の歴史や文化を誇らしげに語り人々の共感を得たと書かれていた。

文庫本サイズ 152 ページ（カラーページ含む）に、**アジア**（インド、カンボジア、セイロン、フィリピン、パキスタン、中華民国、インドネシア、タイ、ビルマ、ベトナム、マラヤ、日本）・**中近東**（アフガニスタン、エジプト、イラン、イスラエル、レバノン、トルコ）・**ヨーロッパ**（ベルギー、ドイツ、イギリス、オランダ、ルーマニア、ポーランド、ノルウェー、チェコスロバキア、ポルトガル、ソビエト、スペイン、スウェーデン、デンマーク、グリーンランド、フィンランド、スイス、ユーゴスラビア、フランス、イタリア、オーストラリア、ハンガリー、ギリシア）・**北アメリカ**、**南アメリカ**（アメリカ、ハワイ、メキシコ、キューバ、ペルー、チリー、アルゼンチン、ベネズエラ、パナマ、グアテマラ、エクアドル、カナダ）・**オセアニア**（ニュージーランド、オーストラリア）の民族衣装を身にまとった人形たちが詳細に紹介されている。

この書の中で韓国（朝鮮）の人形が紹介されていない事に啞然とした。中国の人形については、民族衣装の確立（日本編）で紹介した『人形第 2 巻 嵯峨人形・賀茂人形・衣裳人形：紫紅社 京都書院発行⁽³⁾』の文中で、江戸時代後期、中国の文化に憧れる風潮がみられ、唐子など唐人風俗をとらえた人形が多く紹介されている。中国人形は日本人形とともにアジアにおいては、伝統ある国であると世界に周知されている。

「世界の人形：世界友の会編」の文中で、韓国（朝鮮）の人形について『朝鮮の人形は、民芸的な木彫りが多いのですが、ここでは全く日本人形の技術と表現しかみられないのが残念です。』（原文より一部抜粋）と僅か 2 行のみで紹介されている。時代背景、国策などで、かの国の人形が不参加であったならそれは致し方ない事と思えるが、歴史の中で人形そのものが存在出来ない状況・・・日本の歴史の中でも見られた『巨匠の人形は芸術品として守られたかもしれないが、フランス人形に対抗して作られた夢二人形（ゆめじにんぎょう）は手芸品として扱われており、戦火の中に消えていった。戦争は大正ロマンを伝えてくれる衣裳人形を焼き、フランス人形は敵国のものとして捨てられた。』『衣裳人形にみる民族衣裳の確立（日本編）』の一部を抜粋して、韓国（朝鮮）の人形事情を推測する。

韓国（朝鮮）の民族衣装について

韓国の民族衣装についての情報は、インターネット上に溢れるほどあり、『韓服（朝鮮服）』出典：ウィキペディア（Wikipedia）で簡潔に纏められているので引用することにした。⁽⁴⁾

「チョゴリ（赤古里、襦）とは上半身の衣服であり、男女とも共通。下半身の衣服は女性用はチマ（裳）、男性用はパジと呼ばれる。そして頭に冠帽を載せ、腰に帯を巻き、靴または草履を履く。この上にトウルマギ（外套）を着用すれば耐寒性に優れた胡服系統の衣服となる。

韓国では女性のチマチョゴリ、男性のパジチョゴリ、子供のセクトンチョゴリなども含めて民族衣装全体を広く韓服と呼び、北朝鮮では同様に朝鮮服と呼んでいる。日本で言えば和服に相当する民族衣装である。」



【韓服】

韓国（朝鮮）の民族衣装チマチョゴリの歴史について（1）

チマチョゴリは三国時代に始まったとされている。高句麗時代の王や貴族の墓の壁画からチマチョゴリの痕跡が発見された。

三国時代（新羅、高句麗、百済の勢力争い）は、日本が「倭国」と呼ばれ、大和朝廷の豪族たちが権力闘争に明け暮れていた古墳時代から飛鳥時代に該当する。当時、新羅・百済のそれぞれが勢力争いに加勢を求め日本（倭国）に来た。また、その頃から仏教伝来など深く関わりを持つことになった。ファッションにおいても、古墳時代後期の埴輪、巫女の坐姿（群馬県観音山出土）にみるように大きく髷を結び上げ、丈長い上着に裳を着けている。簪は季節の草花を挿している。女性の正装と考えれば、チマチョゴリの影響が少なからずあったと思える。

韓国（朝鮮）の民族衣装チマチョゴリの歴史について（2）

インターネットで【チマチョゴリ 歴史】と入力するとヒットする記事は、チマチョゴリレンタル専門店や韓国雑貨店のホームページで、現代風にアレンジされたものが若い女性の購買意欲をそそっている。

諦め半分でインターネット砂漠をさまよううち、タイトルが『チマチョゴリの真実⁽⁵⁾』。見出しは「18世紀以降、朝鮮の女性向け民族衣装（チマチョゴリ）に変化が起きた・・・」にアクセスしたのである。逸る気持ちを抑え、サイトを開くとそこには想定外の度肝を抜くような記事と写真が載っていた。

民族衣装チマチョゴリを着た女性たちが『おちち』を露出している写真が掲載されており、それについての説明がされている。18世紀以降、朝鮮の女性向け民族衣装（チマチョゴリ）に変化が起きた。長男を産んだ女性は乳房を露出する（乳出しチョゴリ）習慣があった。当時の朝鮮は長男を生むことが社会的義務であり、長男を産んだ女性は乳房を露出してその証とした。この件について、韓国側からこのような破廉恥な習慣はなかったと抗議があったことが記されている。

『チマチョゴリの真実』からみる現実

この記事を読み思わず吹き出してしまった。おちちとはおっぱいのことであり、まだ固形物を口にすることが出来ない我が子に含ませるものであり、（乳だしチョゴリ）は授乳服としては合理的であると思える。本来の目的はそうであったのではないだろうか。

日本でも、1973年頃までは駅の停車場やデパートの片隅で若い母親がブラウスのボタンをはずし赤ん坊におっぱいを含ませている姿をしばしば目にしたものである。その場に居合わせた人々（老若男女）はその様子を微笑ましく見守ったものである。

見る方も見られている方も、今日で言う『セクシャル ハラスメント』とは無縁であり、自由でのびのびとした大らかさがあった。

私は、中学生の頃から大切に持っている一枚の絵がある。<ピエールを抱くルノワール夫人>抱かれているのはのちの映画監督ピエール・ルノワールである。農婦がつかの間、わが子におっぱいを含ませている。至福のひとときを巨匠ルノワールがキャンバスに描きとめている。

他に、『山姥と金太郎乳呑み⁽⁶⁾』は浮世絵師の喜多川歌麿が描いたものである。金太郎の満足しきった表情と乳房にかけた小さな指先が母と子の絆を表しているように思える。最後に、今も鮮明に記憶に残る浮世絵の一枚であるが、浴衣姿の若い母親が縁側で横たわっている。浴衣の身八つ口から



【ピエールを抱くルノワール夫人】

乳房を引っ張り出しておっぱいを呑んでいる子どもが描かれている。それをみて着物の身八つ口の機能に感心したものである。胸元をはだけることもなく授乳が可能であれば素晴らしいことである。

因みに、男物には身八つ口に該当するものはない。長い歴史の中で改良を重ね、機能性に優れたものが長く継承され風俗習慣の中から民族衣装が確立したものと確信する。



【山姥と金太郎乳呑み】

おわりに

韓国の『衣』の歴史文化について調査研究するにあたり、その国の風土から生まれ継承され、衣裳人形（風俗人形）として保存伝承されていることが望ましいと思ったが、残念ながら目にする事もなく、資料収集に困難を極めた。

チマチョゴリは、スカートのような裳と上着で構成されており綺麗なシルエットで、体のライン（年齢や体形）をすっきりと隠してくれる。欧米化した今日でも、民族衣装の原型を残した普段着が好まれていると言われている。

参考文献

- 1) 青木愛子： 衣裳人形にみる民族衣裳の確立（日本編）P41-46 日本海民族意匠研究事業グループ（2015）
- 2) 世界友の会： 世界の人形（カラーブックス 37） 保育社 （1963）
- 3) 切田 健： 人形 第2巻「嵯峨人形・賀茂人形・衣裳人形」 京都書院 （1985）
- 4) 『韓服』： <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9F%93%E6%9C%8D>
- 5) 『チマチョゴリの真実』： <http://jeogori.web.fc2.com/>
- 6) 『山姥と金太郎乳呑み』： <http://www.gekkanbijutsu.co.jp/shop/goods/02070404.htm>